



月潟中学校 学校だより

翔 舞

第10号

令和5年11月22日

発行

新潟市立月潟中学校

新潟市南区月潟740

防災学習

校長 小竹 智



三週にわたり行った全校総合「防災」の学習が終わりました。一昨年度は「地震災害」、昨年度は「水害」に焦点をあて学習しました。

今年度は、「火災」に焦点をあて、日頃から何をすれば良いか、発災時にどう行動すれば良いかを考えるために、体験活動やインタビュー、話し合い活動を通して、学習を深めてきました。

第一週は、ふるさと未来創造堂の中野雅嗣様を

講師に、「防災クロスロード」を行いました。被災時、判断に迷う状況で、根拠をもって決断することの必要性やさまざまな考え方があることを知りました。

第二週は、「消防団を知ろう」と題して、分団長の矢挽伸行様をはじめ、消防団関係者の6名の方からおいでいただき、Q&Aを通して、消防団について多くのことを学ぶことができました。また、消防団が使っている小型消防ポンプを見学し、消防団についてのイメージを膨らませました。

第三週は、ふるさと未来創造堂様、南区地域総務課様のご支援を受け、濃煙体験、消火器体験、119番通報訓練を行いました。体験を通して、実際に火災が起きたとき、どのように行動すればよいかを知りました。南区の防災士の方々や地域の方々からも参加していただきました。後半は、「中学生ができること」と題して、被災する前後で、地域のために中学生ができることを考えました。

三週とも生徒たちは、楽しみながら、しっかりと学んでくれました。学習したことや話し合ったことは、日常の生活や被災時に必ず役立つと思います。今回の学習の記憶や体験が風化しないように、ときどき思い出し、家族で話し合いをして欲しいと思います。

私の願いは、月潟中学校の生徒はもちろん、月潟にかかわるすべての人が、どのような災害に遭遇しても、互いに助け合い、全員が生き延びることです。中学校の全校総合「防災」の取組が、万が一のとき、役立つことを願っています。なお、今回の全校総合の学習は、南区「未来創造教室」の予算を活用して実施しました。活動についての生徒の感想を紹介します。



分団長さんに質問



小型消防ポンプの説明

「消防団を知ろう」の感想

今日の総合で消防団はどんな仕事をしているのかわかり、防災のために中学生ができるかを考えました。班での話し合いで中学生は地域とのつながりを作ることが大切という意見がありました。地域の人とのあいさつなど、今まで以上に大切にしたいです。

(3年 T)

消防団の方々の話を聞きながら班で話し合い、考えをまとめることができました。火災は自分たちで注意すれば抑えられる災害なので日々注意しようと思います。また、消防団員さんたちの話を聞いて、普段地域の方たちとはあいさつをしていますが、それ以外のことで交流を増やして何かあったときに、お互い安心して行動できるようにしようと思いました。(3年 H)



中学生ができることの話し合い

私の父は消防団員だったのですが、「火災以外にも対応してたんだなあ」とか、「給料もらってたんだなあ」とか知ることができて面白かったです。確かに私が小さい時、忙しくて休日も遊べなかったり、出かける話が先延ばしになっていたこともあったように思いますが、今日、話を聞いて消防団員だった父を誇りに思いました。「わたしも消防団員になりたい！」とまではいきませんが人を助けられるような人間になるため、日頃から準備していきたいです。(3年 M)

「体験活動を通して」の感想

実際に119に通報する練習や、消火器の練習、煙の中で歩く体験など、普段できないことをたくさん体験させていただけてすごく良かったなと思いました。119番通報は焦ってしまうと混乱して何をいうのかわからなくなりそうで、適切に言葉を選ばないといけないなと感じました。消火器の練習では、消火器を触ったことが無かったので準備の仕方やしまい方などよくわかりませんでした。ボランティアの方たちが優しく教えてくださったので、よくわかりました。煙は、昼で明るい時間でも視界が見えにくかったので、夜や1人だけだとパニックになってしまいそうだなと思いました。これからは、防災学習で学んだことを活かしていきたいです。(2年 K)



濃煙からの脱出

「全体を振り返って」の感想

今までの防災学習は、災害時や防災活動で中学生にもできることがあると学ぶだけで、その具体的な内容は分かりませんでした。しかし、今年の3回の防災学習を通して、中学生には行うことが難しいこと以外にも、日頃から地域の人とコミュニケーションをとったり、家族と災害時での行動について話し合ったりするなど身近なことから始めることが大事だとわかりました。普段体験できない119番通報の仕方や煙の中を歩いたりすることができてよかったです。(3年 T)

今まで災害が起こっていないから自分には関係ないと思うのではなく、これから起こるかもしれないと考え、準備や家族での話し合いを行いたいと思いました。

火災の煙の体験や消火体験を通して万が一のことが起こった時に適切な対処ができるようにしたいと思いました。(1年 Y)

日頃から地域の人とあいさつしたりコミュニケーションをとることや、防災グッズの準備、避難所の手伝いなど、中学生にもたくさんできるとわかりました。また、家族で、どこに避難するかを決めるだけではなく、避難経路の確認も大切だと思いました。これらのことやいざという時のために、家族でしっかり話し合っておきたいと思いました。(3年 H)

私が小さい時に、近くの家で火事があったって父が高齢者を助けているところを見ました。そのお婆さんは助かって、笑顔で「ありがとう」と言っている姿がとても嬉しそうでした。このように、救助をする時には、顔を知っていると安心して一緒に避難ができるのだなと思いました。普段の何気ないあいさつから自分の顔を覚えてもらって、私も「助けてもらう」ではなく、自分と周りの人の命を「助ける」ことができるように防災の学びを活かしていきたいです。また、実際に災害が起こった時に、現場の状況をより深く理解しておくことで、電話をする時にも正しい情報が伝えられるのだなと思いました。電話の時に、パニックにならないように気をつけたいです。(2年 N)



119番通報訓練



水消火器訓練



地域のためにできることの話し合い



縦割り班で協議したことを発表

月潟地区防災訓練

11月19日(日)に月潟中学校を会場に、月潟地区の防災訓練が行われました。10名の1,2年生の生徒がボランティアとして参加し、避難所受付、アルファ化米試食の手伝いを行いました。今回、ボランティアをしてくれた生徒たちは、きっと万が一のときにも、地域に貢献できるものと思います。



アルファ化米試食準備

防災訓練に参加して 2年 M

今回参加したのは、身をもって防災について体験したいと思ったからです。私は、アルファ化米の試食を準備し。参加者に渡す仕事をしました。火を使わずとも食べられるアルファ化米は災害のとき、とても便利だと思いました。

今回、中学生のボランティアが少なかったもので、次はより多くの人に来て、一緒に防災について学べるというなと思いました。地域の皆様から、いろいろ教えてもらえました。ありがとうございました。



避難所受付の手伝い

月潟地区芸能祭

11月12日(日)に月潟地区芸能祭が農環センターで行われました。吹奏楽部が出場したほか、3年生の和平真優乃さん、児玉美桜さん、2年生の後藤律輝さんの三名がボランティアとして司会を務めました。明るくさわやかに進行してくれました。

芸能祭の司会をやってみて

3年 W

「やってみない？」と声を掛けられたのがきっかけで、少し不安もありましたが、司会を引き受けました。原稿の漢字が難しく、上手に読めるかも不安に思いました。

しかし、家で練習していくうちに聞く人にうまく伝わるようにするため、ゆっくりと、はっきりとした話し方を心がけるようになりました。

当日は、緊張して、少しまづいてしまったけど、上手に会場の人たちに伝えられたと思います。終わったとき、とてもほっとしました。大変だったけど、やって良かったと思いました。



<<司会者の写真は、削除しました>>

